No.17 …… ご使用に当って特に注意して頂きたいことのレポートです

TOP SAFETY REPORT

トップ内視鏡用穿刺針

〝針が出ない・戻らない〟トラブル防止のチェックポイント

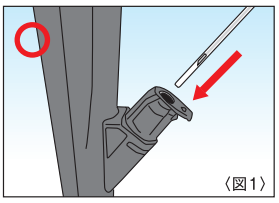
1 鉗子口への穿刺針の挿入

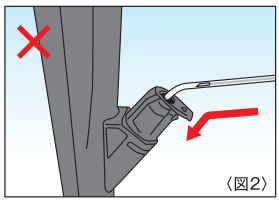
Check 1 斜めに挿入しないでください

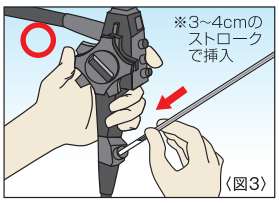
鉗子口に対し穿刺針は真っ直ぐ挿入します（図1）。斜めに挿入すると（図2）チューブの折れ曲がりが生じ、内針の突出操作が正常に行なえなくなるおそれがあります。

Check 2 無理なくスムーズに挿入してください

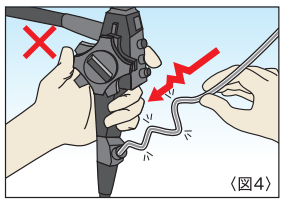
穿刺針は3～4cmのストロークでスムーズに挿入します（図3）。長いストロークや過剰なスピードによる挿入は、チューブの折れ曲がりが生じやすく（図4）、内針の突出操作が正常に行なえなくなるおそれがあります。


〈図1〉


〈図2〉



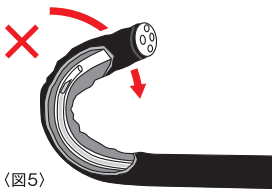
〈図3〉


〈図4〉

2 内視鏡へのアングル操作

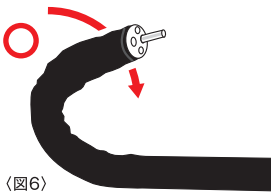
Check 1 内視鏡から外筒チューブ先端を突出させて操作しましょう

外筒チューブ先端が内視鏡湾曲部に位置した状態でアングル操作を行うと（図5）、チューブ先端に曲がり癖が生じ、内針の突出操作が正常に行なえなくなるおそれがあります。外筒チューブを内視鏡先端から突出させて（図6）アングル操作を行なってください。


〈図5〉

Check 2 斜視型スコープや側視型スコープの注意点

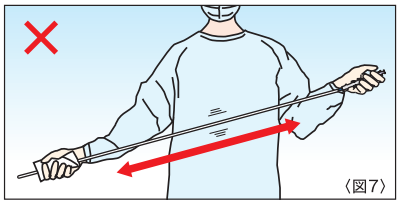
斜視型スコープや側視型スコープで強いアングル操作を行うと、鉗子台によってチューブが強く押し曲げられ、内針の突出操作が正常に行えなくなるおそれがあります。


〈図6〉

3 外筒チューブの汚れの拭き取り

Check 1 外筒チューブを強く引っ張らないでください

穿刺針の外筒チューブを消毒用脱脂綿で強く拭う、または強く引っ張るなどの扱いはしないでください（図7）。外筒チューブに伸びが生じ、内針の突出不足やチューブ先端の曲がり癖など、内針の突出異常の原因になるおそれがあります。


〈図7〉

4 内針の出し入れはゆっくり行いましょう

急激な内針の出し入れは、内針が外筒チューブを貫通するおそれがあり、内針の突出操作・収納操作が正常に行えなくなります。

株式会社トップ 安全管理部
〒120-0035 東京都足立区千住中居町19番10号

使用の際には、必ず詳細を添付文書及び取扱説明書にて確認してください。